

# 「極東アジアの政治経済リスクと将来」

岡田 邦彦氏

早稲田大学大学院 公共経営研究科 客員教授

## はじめに

極東アジアの政治経済リスクと将来を考える際、内乱、大飢饉、戦争、通貨危機、天変地異、感染症などリスクは数え切れないほどある。たまに隕石が衝突することすらある。しかし、ここでは、偶発的なものは別として、ある程度、予想がついている人口動態、経済軍事のパワーバランスの変化を中心に考えてみたい。その際、米国国家情報会議の最新レポート Global Trend 2030が参考になる。今や、世界は緊密に繋がっている。極東の問題を考える場合も、世界全体の問題の一局面と考えるべきである。極東独自の近未来的なリスクについては後述する。

## Global Trends 2030に見るリスクと未来

Global Trends 2030は、米国大統領の諮問機関として置かれた NIC (National Intelligence Council / 米国国家情報会議) が発行している定期的な長期予測である。概ね4年ごとに、各種の専門家が世界の人口動態やさまざまな政治経済文化的な要因を分析し、世界の動向について予測する。米国の安全保障のあり方に一つの判断基準を与えるものである。このレポートは2012年12月に発行され、① Megatrends, ② Game-Changers, ③ Potential Worlds の3部構成になっている。

Megatrends は、ある程度傾向が予測出来ているもので、以下の4項目が挙げられている。① Individual Empowerment 貧困の減少、世界的な中産階級の増大。② Diffusion of Power 覇権国がなくなる。世界の多極化。③ Demographic Patterns 人口動態。世界の人口の60パーセントが都会に住むことになる。流民の増大。④ Food, Water, Energy, Nexus 世界人口の増大に伴い、食糧、水資源、エネルギーなどの需要が増える。

Game-Changers としては、6つの要因が挙げられている。どちらに転ぶかによって大きく展開が変わる要因である。① Crisis-Prone Global Economy 経済的利益の異なっ

たプレイヤー間に大きな不均衡が生まれるかもしれない。または、逆に、多極化により、世界経済秩序の柔軟性が生まれるかもしれない。② Governance Gap 政府機関や各種機構が世界の急速な政治経済的变化に対応し、それを緩和することができるか、あるいはそれに呑みこまれるか。③ Potential for Increased Conflict それぞれの国家のパワーが急速に変化することによって、国内的、国際的紛争を激化させるかどうか。④ Wider Scope of Regional Instability 地域的な不安定性。特に、中東、南アジアなどが発端となり世界的な安全保障の問題を引き起こすかどうか。⑤ Impact of New Technologies 技術革新が人口問題、急速な都市化、気候変動などの問題を解決し、経済生産性を高めることができるかどうか。⑥ Role of the United States 米国は、新しいパートナー（ここでは中国を想定しているようである）と共に世界秩序を改革することができるかどうか。

Potential Worlds 潜在的に展開可能性のある世界である。以下の4つの項目が挙げられている。① Stalled Engines 最悪のケースとしては、国際紛争が増え、米国が国内に引きこもり、グローバル化が行き詰る。② Fusion 最善のケースとして、米中が幅広い分野で世界的な協力を行うようになること。③ Gini-Out-of-the-Bottle ある国々が優勝し、ある国々が惨敗することによって、国家間の不均衡が爆発的に拡大する。国家間の不均衡から、社会的な緊張が生まれる。米国は、世界の警察官ではなくなる。④ Nonstate World 新しい技術によって、非国家主体が世界の課題に挑戦することができるようになる。

同レポートは、上記以外に、これまで起こらなかったが、起こる可能性のある危機として、以下のものを挙げている。①強力な感染症の発生 ②より激しく急速な気候変動 ③ EU の崩壊 ④民主化された、または崩壊した中国 ⑤イランの革命 ⑥核戦争または、大量破壊兵器、サイバー攻撃 ⑦太陽嵐の発生 ⑧突然の米国の国際政治経済への不介入 の8項目である。

また、中国、インド、ロシアについて、以下のように記述している。①中国は、根本的な政治経済改革が停滞することによって、腐敗と社会不安が経済成長率を低下させ、(国民の批判を回避するために)政府は国家主義の扇動や海外での冒険を行うようになる可能性がある。②インドは、米国のアジアからの撤退によって、益々好戦的な中国を回避し、自衛せざるを得ない。③ロシアは、米国のアフガニスタンや中央アジアからの撤退によって、周辺国への影響力を強めることになる。

本レポートは、①世界政治経済の中での米国の影響力の相対的低下、②中国の世界政治経済への影響力増大を所与の条件としている。米国の「世界の警察官」としての役割が減少し、世界の民主化が後退し、テロリズムが横行し、世界政治経済の不安定性が増すという傾向を示唆している。米国の経済界は既に、中国市場や中国マネーにかなり依存しており、特に、オバマ政権になってから、米国内では、中国を敵対視し、包囲外交をするより、共存路線を進めたい勢力が増大しているように見える。世界一の米国債の保持国である中国をぞんざいに扱うわけにはいかない。冷戦時代のような二極化世界や、ソ連崩壊後の米国一極化時代は既に終わり、すでに多極化時代に突入しているといつてよい。

### 極東アジアの安全保障上のリスク

日本を取り巻く安全保障問題も、多極化の影響が出ている。尖閣諸島での中国公船の公然たる挑発などは、米国の覇権や日米同盟の堅固さを試しているともいえる。

中国軍は、中長期的に、太平洋を分割し、ハワイ諸島の西を中国の実質的な覇権海域、東を米国の覇権海域とする考えがあることを公然と表明しており、私も中国高級武官から直接、似た話を聞いたことがある。近年の中国軍の近代化は宇宙開発から艦船、航空機、サイバー技術までめざましい。中国の軍事予算は額面だけ考えても、10年前の3倍以上に膨れ上がっており、既に、日本の防衛予算の倍近い。実質的にはそれ以上だと言われている。

ハーバード大学のジョセフ・ナイ教授は3つのチェスボードの理論を提唱している。すなわち、世界情勢を見る際に、軍事、経済、文化の3つのチェス盤を想定するというものである。米中間も、3つのチェス盤で2者がチェスを行っていると考えられる。今のところ、まだ、米国は軍事、経済のチェス盤とも中国に相当な差をつけているが、次第にその差は狭まっている。文化のチェスボードは、古代文明は別として、まだ米国が中国を圧倒していると考えていい。

もともと、極東は、地政学的に大変高い地域的リスクを

はらんでいる。それは日清日露戦争時代から太平洋戦争、冷戦時代から今に至るまで変わらない。仮にその地域に局地的な紛争があれば、一挙に世界経済に大打撃を与える。昨今は、不測の事態による日中間の軍事衝突を懸念する国内外の論者も多い。北朝鮮の核ミサイル開発が順調に進めば、朝鮮半島も日本にとっての周辺事態となりかねない。そして、この緊張状況は、何か重大な転機が訪れない限り、かなり長期的に続くことを覚悟しなければならない。

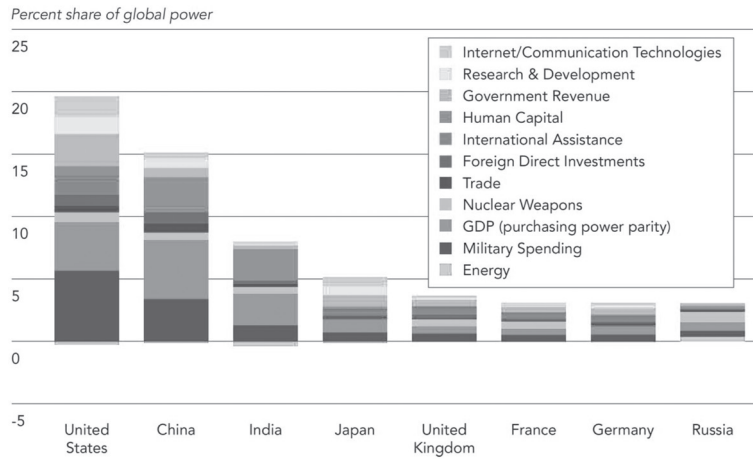
米国は、TPPを経済的枠組みとしてのみならず、環太平洋のもう一つの安全保障の枠組みと考えていると言ってもよい。米国が後押ししている原発再稼働も、安全保障上の問題からの視点も大きい。米国の戦略は、大国間の直接的な軍事衝突という伝統的、破滅的、高コストの手段ではなく、軍事を背景にしながらも、外交的な枠組みや経済的枠組み(WTOやTPPなど)による覇権の維持にシフトしつつあるようだ。

### おわりに

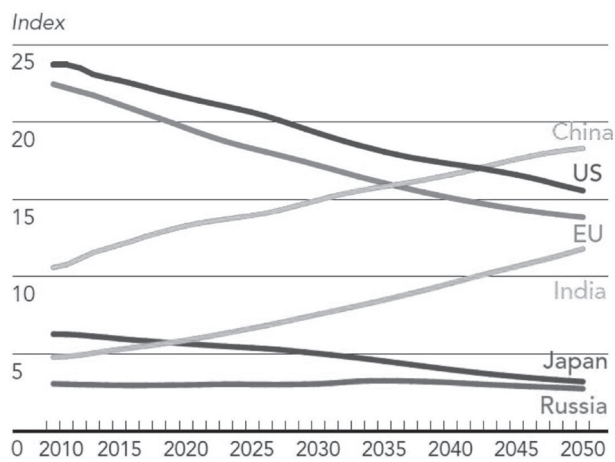
極東アジアには、Megatrends 2030にあるリスクは全てあてはまる。とりわけ、政治的、外交的なリスクは高い。極東アジアは、多くの国々が軍事、経済、文化のチェス盤上でせめぎ合う前線である。前述のナイ教授の「スマート・パワー」の論理でいえば、ハードパワー(軍事のチェス盤。軍備や作戦能力、軍事的拡張や闘争の意図)とソフトパワー(経済と文化のチェス盤。ここでは、経済的スタンダードやポリシー、政治理念、経済理念、形而上学的理念、習慣など)をミックスしたパワー闘争の最前線である。

この時代は、17世紀ヨーロッパにできた国家制度がグローバル資本主義と世界的な民主化の流れによって挑戦を受けている。国家を超えて数京円ともいわれる雲のように蓄積された莫大な流動資本が瞬時に移動し、通貨や株式などに大きな影響を与える。さらに、市民が国家体制を崩しかねない情報を持ち発信する。上記 Megatrends 2030 で言えば文字通り、Individual Empowerment、あるいは、Cooperate Empowerment でもある。資本の流動と民心の流動によって、政治体制も流動的になる。各国とも、国内においても、経済や政治理念によって大きな挑戦を受けている。

極東アジアは、歴史の古い国々が同居している。生活習慣、民族的アイデンティティはとても強い。また、法による支配や民主主義が徹底している国ばかりではない。政治的リスクは未知である。世界の端で生じた問題が極東に飛び火することも充分にある。混沌として誰もその帰趨はわからない。



Elements of Power of Leading Countries in 2030



New Multi-Component Global Power Index Forecast

参考文献

Global Trends 2030, National Intelligence Council, Dec. 2012 (図版はいずれも同資料より)  
 PHP グローバルリスク分析 (PHP 総研 2012年12月)

The World in 2030, Project Syndicate, Joseph Nye, Jan 9, 2013  
 “How China Sees America”, Andrew J. Nathan and Andrew Scobell, Foreign Affairs Sep/Oct 2012